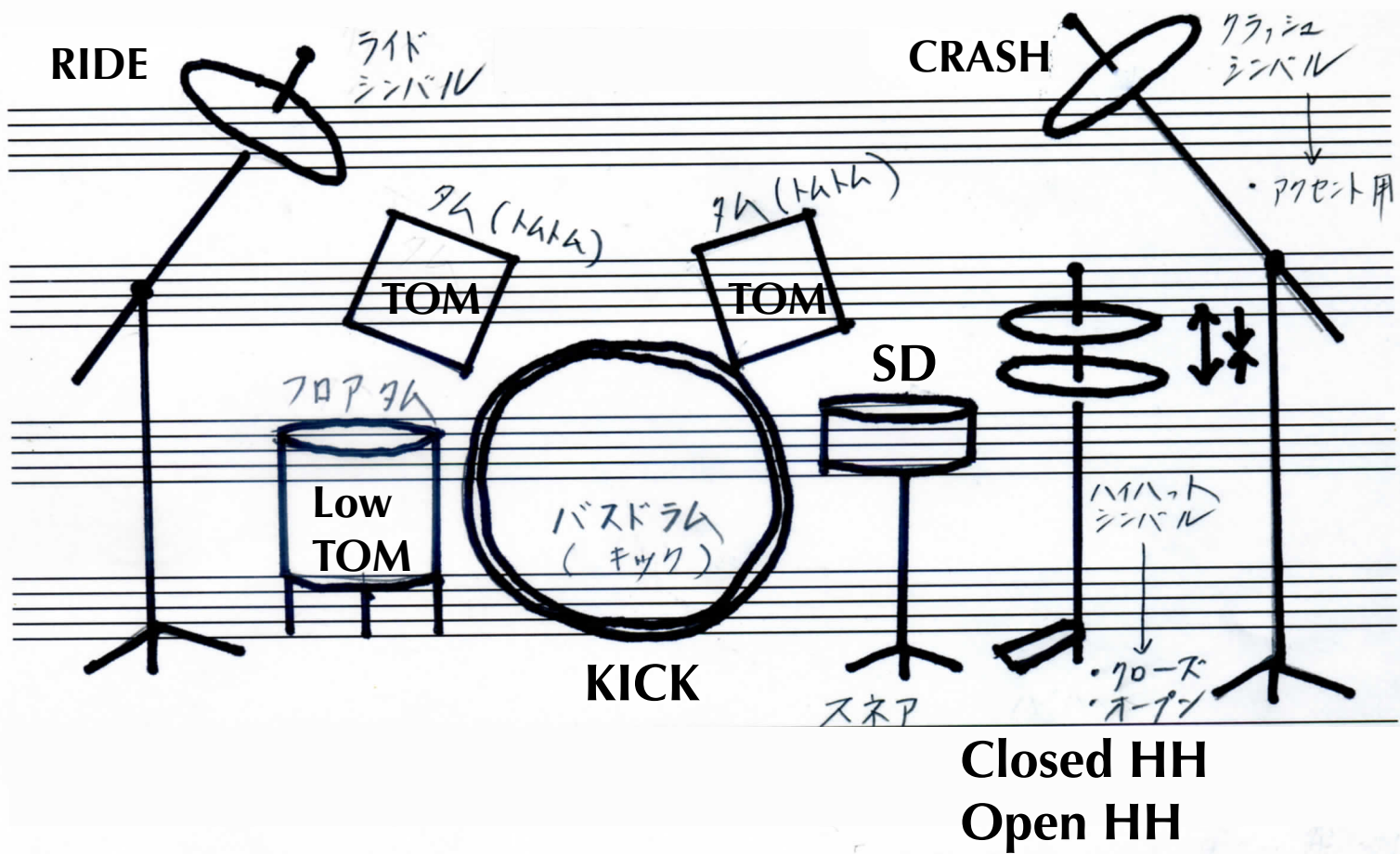


基本的なドラムセットの構成



① ドラムの記譜

(バンド譜の場合)

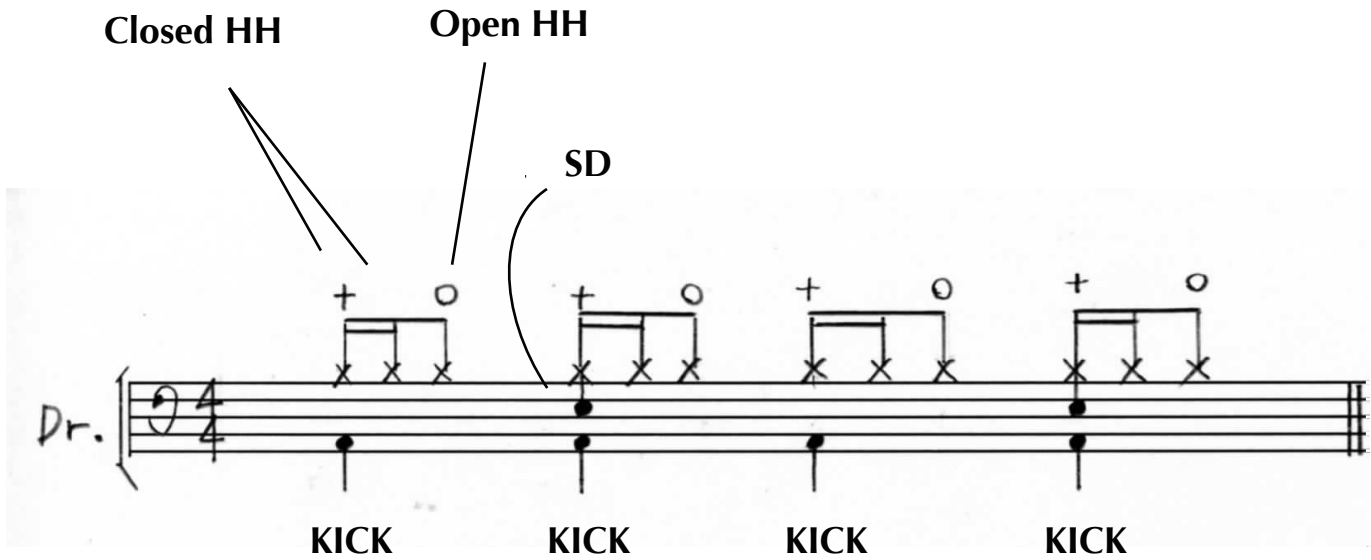
記譜

バスドラム KICK スネア SD ハイハット・クローズ Closed HH ハイハット・オープン Open HH クラッシュシンバル

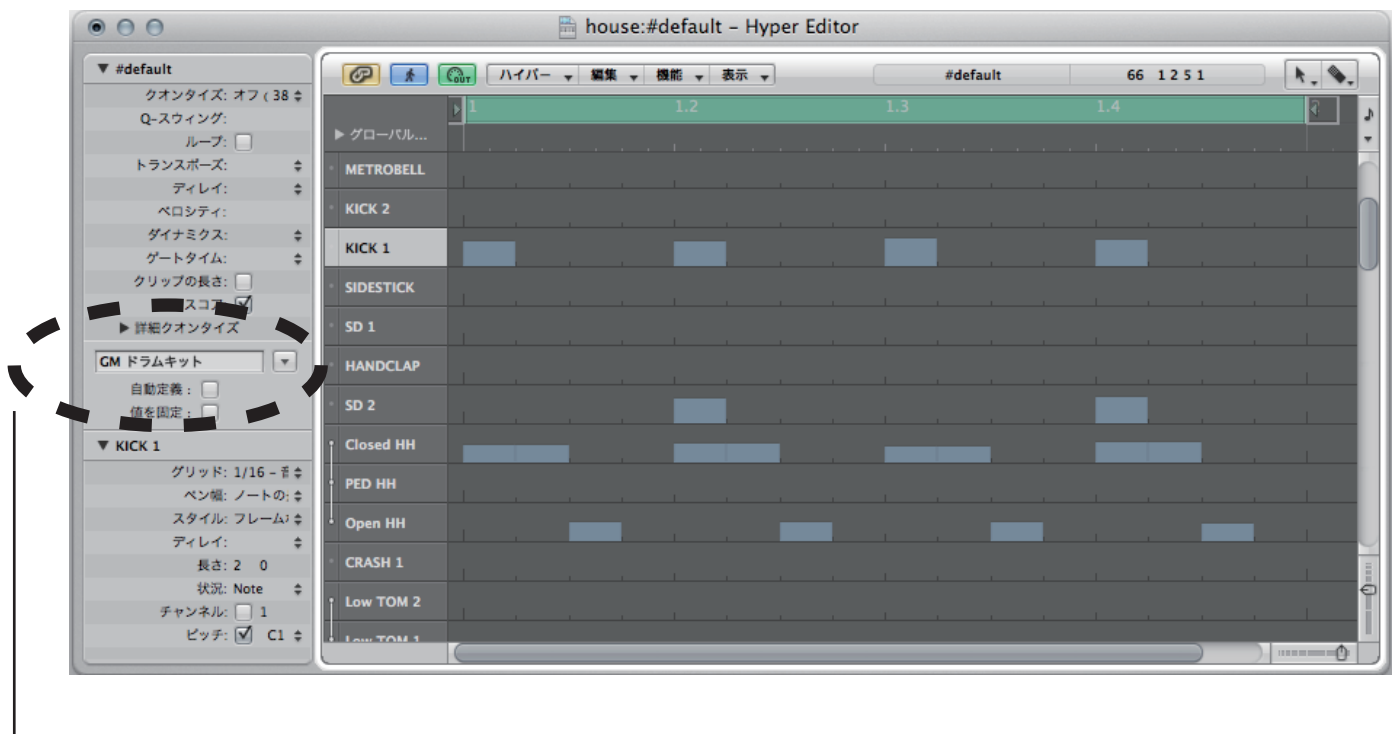
クラッシュシンバル トム (トム)

■ 基本リズムパターン

ドラム専用音源は「Ultrabeat (Drum Synth) ステレオ」
ドラムキットを「01 DrumKit > Deep House Kit」を選択
(後に各自で自由に変更して下さい)



▼ 「Hyper Edit」 ウィンドウ (上の基本ドラムパターンを打ち込んだ様子)



【重要】音を入力するためには、このメニューを「MIDI コントロール」から「GM ドラムキット」へ変更

1. 今回の映像素材を読み込む
2. 「ソフトウェア音源」のトラックを1個作成
3. トラックに音源を割り当てる。 ドラム専用音源「Ultrabeat (Drum Synth) ステレオ」を選ぶ
4. ドラムキットを「01 DrumKit > Deep House Kit」を選択 (後に各自で自由に変更して下さい)
5. 「アレンジウィンドウ」で「鉛筆ツール」を選び、1小節の空の「MIDI リージョン」を作成
6. 【重要】「MIDI リージョン」を選択して、「ウィンドウ」メニューから、「Hyper Edit」を選ぶ
7. 【重要】「Hyper Edit」ウィンドウの左の欄にあるメニューを「MIDI コントロール」から「GM ドラムキット」へ変更
8. 「Hyper Edit」ウィンドウ内で、右を「鉛筆ツール」、左を「消しゴムツール」(コマンドキー使用時有効)を選ぶ
9. 配布資料の「基本リズムパターン」を打ちこむ。
10. ドラム専用音源「Ultrabeat」の画面で、様々な「ドラムキット」の音色を試してみる。
11. ドラムトラックに対して、各種「エフェクター」をかけて音の変化を確認してみる。
12. 「アレンジウィンドウ」上で、リージョンを映像の長さの分まで、コピー & ペーストする。
13. 「アレンジウィンドウ」の下にも「Hyper Edit」ウィンドウが表示されることを確認する。
14. 「アレンジウィンドウ」上で、リージョンを選択しながら、「Hyper Edit」を使用して、それぞれのリージョンに変化をあたえる。
15. 「基本リズムパターン」の〈コピペ〉で作成された「8小節パターン」のうち、とくに「4小節目」や「8小節目」の最後に、音を追加するなどして変化をくわえると完成度が上がる。
16. 映像の動きに応じて、〈音で描写〉するように、音を入力してみる。
17. 音楽的に必要であれば、サンプラー音源「EXS 24」などで、リズム要素以外のパートを追加しても可。
18. 全体の構成を整える(「ミニマル風の音楽」のように)

(以上)